



「ご飯がおいしい新米の季節になったね。登米市では「環境保全米」というお米の栽培が盛ん。国連の持続可能な開発目標(SDGs)の一つ「陸の豊かさを守ろう」につながる取り組みで、いい



地球のためにできること

環境に優しい米作り

「山から流れてくる水を、できるだけ汚さないで海に返したい」。みやぎ登米農協の南方町水稻部会長の久保芳彦さん(63)は言います。12ハの田んぼを耕し、仙台牛も育てています。栽培したお米の種類は「ひとめぼれ」や「つや姫」など。多くが農薬や化学肥料を全く使わなかったり、減らしたりして作る環境保全米です。水稻部会でまとまって取り組んでいるそうです。農薬を使わないと、雑草が生えてしまいます。このため、大久保さんは草を食べるアイガモを放します。その結果…

ことがたくさん、田んぼで起きているよ。



農薬減らし生き物育てる

「サギなど鳥がたくさんやって来る。えさになる小魚、カエル、ドジョウ、トンボ、水生昆虫が増えたから」



活動は他にも。田んぼの水を一時なくす「中干



大久保さんらと環境保全米の稲刈りをする近くの西郷小の5年生たち＝10月6日、登米市南方町

し」を通常の6月下旬から7月初めに遅らせています。ヤゴがトンボになる時期と重ならないようにするため。渡り鳥のために冬の田んぼに水を張る「ふゆみずたんぼ」なども行っています。宮城県は環境に優しい米作りが盛んです。農薬

や化学肥料を使わず、有機栽培やオーガニックと表示できる「有機JAS」の認証を得た田んぼの面積は約3400ヘクタールで、全国トップの広さです。



でも、大久保さんは将来を心配します。お米を作る人の高齢化が進み、お米を食べる量が減り続けているからです。「ご飯1杯分のお米が育つ稲の周囲にはオタマジャクシが35匹泳いでいると言われます。子どもたちにご飯をもう一口食べてほしい。生き物を育てる田んぼを守る米作りを、食べることで支えてほしいと期待します。」

◇ 学校で体験する田植えや稲刈りも「陸の豊かさを守る」ことにつながっているんだね。今度はどんな生き物がいるかも調べてみよう。

今週の注目ニュース

◇19日(金) 部分月食

夕方から夜にかけて月が部分的に地球の影に隠れるため、月が欠けて見えるよ。今回は月の大部分が隠れるそう。月が最も欠けて見えるのは午後6時3分ごろで、その後空を昇りながら地球の影から離れていくよ。

- 2面 イマ★どきりポート
- 3面 3分チャレンジ
- 4・5面 わが校わがまち スクール通信
- 6面 聞いて学べる こども英語
- 7面 投稿特集
- 8面 志村けんの大爆笑展